

第三者保証

当社は、直接的なGHGの排出量（スコープ1）、エネルギー起源の間接的なGHGの排出量（スコープ2）及びその他の間接的なGHGの排出量（スコープ3 カテゴリー1、4、11）を算出し、ロイドレジスター クオリティアシュアランス リミテッド（LRQA）による第三者保証を受けています。



キヤノングループの2016年GHG算定報告に関する保証声明書

保証業務の条件

この保証声明書は、キヤノン株式会社に対して作成されたものである。

ロイドレジスター クオリティアシュアランス リミテッド（LRQA）は、キヤノン株式会社（東京都大田区下丸子三丁目30番2号）より、同社および連結子会社の2016年（2016年1月1日～同年12月31日）の温室効果ガス（GHG）インベントリ（以下、報告書と言う）の保証業務を委嘱された。

報告書は、直接的なGHGの排出量（スコープ1）、エネルギー起源の間接的なGHGの排出量（スコープ2）及びその他の間接的なGHGの排出量（スコープ3 カテゴリー1、4、11）に係わるものである。

管理責任

キヤノン株式会社は、報告書の作成と開示されたデータ及び情報管理の効率的な内部統制の維持に対して責任を有する。また、LRQAの責任は、キヤノン株式会社との契約に従い、報告書の保証業務を実施することである。

報告書は、最終的にキヤノン株式会社に承認され、引き続きキヤノン株式会社の責任の下にある。

保証手続

LRQAの検証は、「ISO14064-1:2006組織における温室効果ガスの排出量及び吸収量の定量化及び報告のための仕様並びに手引」の規定に準拠して算定され、報告書に明記されたGHGデータについて、限定的保証を提供するために、「ISO14064-3:2006 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」に従い、更にGHGプロトコルの「企業のバリューチェーン（Scope3）の算定及び報告に関する基準」を参照して実施された。

結論を得るために、保証業務はサンプリング手法を用いて、次の事項を含んで実施された。

- キヤノン株式会社本社（東京都）、キヤノン株式会社川崎事業所（神奈川県）、キヤノンプレジジョン株式会社（青森県）におけるサイト訪問
- 上記サイトでのGHG排出量データ・情報管理、報告書作成に係わる主な担当者へのインタビュー
- 報告書に含まれているGHG排出量データ・情報の管理プロセスのレビュー
- 報告書に含まれているGHG排出実績データ・情報について、本社における集計と訪問したサイトで入手可能な情報源との整合の検証

保証水準と重要性

この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

¹ スコープ1,2排出量は、The Greenhouse Gas Protocol の A Corporate Accounting and Reporting Standard の規定による。

² スコープ3排出量のカテゴリーは、The Greenhouse Gas Protocol の A Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard の規定（表5.3）による。



検証意見

上記の保証手続において、下の表 1 に要約された報告書の直接的な GHG の合計排出量、エネルギー起源の間接的な GHG の排出量、その他の間接的な GHG の排出量が重要な点で正しくないことを示す事実はなかった。また、報告書が ISO14064-1:2006 に準拠し、更に GHG プロトコルの「企業のバリューチェーン (Scope3) の算定及び報告に関する基準」を参照して作成されていないことを示す事実は認められなかった。

LRQA 推奨事項

キヤノン株式会社によって今後次の取り組みが進められることが望まれる。

- 本社及びグループ会社レベルでの自社による内部の検証によって品質管理のためのシステムを引き続き実施すること

日付: 2017年3月31日

飯尾 隆弘

飯尾 隆弘

主任検証者

ロイドレジスターオリエンティアシユアランスリミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA 10F

LRQA Reference: YKA4005113

表 1. 2016年キヤノン株式会社(連結)のGHGインベントリの要約

スコープ	トン CO ₂ e
直接的な GHG の排出量 (スコープ 1)	164,769
エネルギー起源の間接的な GHG の排出量 (スコープ 2) – ロケーションベース	1,046,831
エネルギー起源の間接的な GHG の排出量 (スコープ 2) – マーケットベース	953,952
その他の間接的な GHG の排出量 (スコープ 3)	5,093,672
注 1: スコープ 2 のマーケットベースとロケーションベースは、GHG プロトコル スコープ 2 ガイダンス 2015 年に基づいている。	
注 2: マーケットベースには、一部ロケーションベースが含まれている。	
注 3: スコープ 3 は、カテゴリー 1、4、11 について算定されている。	

この保証手続は、本リーガルセクションで述べた条件に基づくものである。
 この保証手続は、声明書が参照している報告書とともに公表された場合のみ有効であり、企業としてのみ実施することが出来る。
 ロイドレジスターグループリミテッド、ロイドレジスターオリエンティアシユアランスリミテッドを含む関連会社及び子会社、並びにその役員、従業員または代理人を、個人並びに雇用としてこのリーガルセクションではロイドレジスターと称する。
 ロイドレジスターは、この文書や他の方法で提供された情報またはアドバイスに依存した結果として、いかなる責任も負わず何人にも損失、損害あるいは発生した費用の責任を負わない。適切なロイドレジスターの鑑定と検証またはアドバイスの提供について契約を締結した場合は、その責任または義務はその契約書の規定した条件によってのみ定められる。
 内在した内部管理体制の制約によって、欺瞞、隠蔽、または誤法違反が生じ、発見されない可能性がある。また、検証員以上に限定された要請事項に関するものであり、疑問を添って継続的に実施されておらず、また、当該内部管理体制の検証は結果を基に実施されるので、検証は内部管理体制の弱点や誤り全てを発見するように計画されているものではない。将来の期間の管理の計画は、条件の変更や遵守の違反が低下する可能性がある。プロセスが妥当性を失うリスクを伴う。
 この保証手続書の複製が正式なものとする。ロイドレジスターは、他の言語に翻訳された声明書にはいかなる責任も負わない。もしも、英訳版と日本語版との間でこのリーガルセクションについて不一致が生じた場合、英訳版を優先とする。